

山行NO NO. 1797
日時 2018. 07. 31 (火) ~ 08. 02 (木)
山域 白馬岳 (2932m) ~ 朝日岳 (2418m)
参加者 GT、KH、MM、HT、GM=5名

07月31日 (火・晴れ)

コース 長泉4:00-猿倉発8:52-大雪溪-村営小屋14:20-白馬山荘14:50 (泊)
標高差 上り 猿倉約1230m~白馬山荘約2858m=約1628m
下り なし

大雪溪は厳しい上りだった

4時長泉発。猿倉から出発。大雪溪は久しぶり。調べたら2005年5月、山スキーで白馬~親不知のいわゆる「日本海オートルート」以来だった。
http://outdoor.geocities.jp/takanori_reihou2222/560.pdf



大雪溪

白馬尻上から雪渓。雪渓は寒いくらい。雪は硬いので簡易アイゼンを使用。サクサクと快適だった。ねぶか平下で終了。ここから暑い。半端でなかった。寝不足と重荷で足は重い。久しぶりにバテバテだった。何回かスキーで上った大雪渓だが、夏は意外と厳しい。厳しいのは理由があった。標高差が約1600m。これは甲斐駒・黒戸尾根の七丈小屋まで（約1580m）とほぼ同じ。加えて、モーレツな暑さ・熱さ・温さである。時間は約6時間。前述のスキーは、約5時間45分。年齢・夏を考えれば、まあまあの時間だった。遅い方は8時間かかるようだ。ただ、花がイイので救われる。

ねぶか平で自然監視員がパネルを用意し花説明をしていた。「深山花忍」がないですね。何処にあるのかな～、と聞いたら、意外にも監視員は、「??」で、その花を知らなかった。ミヤマハナシノブは、北岳と白馬にしかない花とはいえ、それでよく花説明が出来るのか驚いた。バテバテで胃が気持ち悪い。水分の摂りすぎかも知れない。逆療法でGYとビアを頂いた。そしたら元気になったのには、またまたビックリ。

村営小屋下に来ると、上から山岳警備隊隊員1名と昭和大学白馬診療所学生2名と会った。警備隊員がGYの脛の擦過傷を見て、バイ菌が入ると熱が出るから山荘の診療所に行くようアドバイスがあった。後でGYは実際に診て貰ったが、大げさな包帯に笑ってしまった。



車百合



警備隊と学生



ねぶか平

村営小屋から頑張って山荘着。直下は、伊吹麝香草（イブキジャコウソウ）が多い。

今回は、知り合いに頼み個室を取った。宿泊客は多い。

久しぶりの山荘だった。宿泊申し込みは、あらかじめ宿泊者名簿を記入する。

着替えてサッパリしサロンに向かう。以前、ピアノがあったと記憶するが、現在はエレクトーンだった。演奏を聞いたかったが、何もなかった。

さっそくビアを頂く。中ビンが一杯800円。生だったが疲れているせいかなり甘くなかった。夕食はハンバーグで変わり映えはなし。

Mが元会員の下土狩のIがいたという。聞けば単独で唐松から来たらしい。

膝が悪くて歩けないが退会理由だったが、改善したのだろうか。夜は元気者が星座・火星観察を楽しんだようだ。



白馬山荘サロン

08月01日（水・晴れ）

起床4：00－朝食5：00－白馬山荘発5：31－白馬岳5：48－三国境6：16－雪倉岳避難小屋7：49－雪倉岳8：31－雪倉・赤男山コル9：31－第二の水場12：29－朝日岳12：44（泊）

天上の楽園、百花繚乱に痺れる

白馬山荘の朝食は5：00。最近の山小屋は朝食時間が早くなった。早出早着は登山の基本。この時間は、本当に有難い。トイレもサッと済ませ、5：31出発。天気はイイ。外は涼しい風が吹き快適。

白馬に上り三国境に下る。北面は南面とまた違う植生。三国境から楢池に下る方が多い。鉢ヶ岳は東面を巻く。ただ、スキーの場合は、稜線を忠実に辿る。巻き道は雪解けの後で花が凄かった。白山小桜（ハクサンコザクラ）が沢山咲いていた。



白馬を下る



駒草



雪倉岳避難小屋



中央一番高いのが白馬岳

巻き道が終わり、雪倉岳のコルに避難小屋がある。前回、スキーの時、ここに泊まった。懐かしかった。ドアを開くと、何処かの方が出発支度をしていた。周りは、唐糸草（カライトソウ）が目立った。赤い花が少ない山岳で見事にキレイ。雪倉岳に上る。振り返れば白馬は遠くなった。サイコーの天気で夏山三昧。頂上で何人か休んでいた。東面を覗く。ここも、かつて蓮華温泉からスキーで来た。瀬戸川から非常に厳しい上り。3月の硬雪で滑落した方を目撃した。雪倉岳を下り朝日岳に向かう。赤男山のコルまで約661mの下り。かなり急な下りだが、スキーは東面か西面か、どちらを下ったか記憶がない。夏道はコルから赤男山西面を巻いて朝日小屋に達する。ここもスキーは稜線を忠実に辿る。赤男山は急峻な山で、本当にここをスキーで上ったのかと思った。http://outdoor.geocities.jp/takanori_reihou2222/560.pdf

最低コルで大休憩。この辺りの花も凄い。朝日小屋からの縦走者が多い。本コースの場合、白馬からが楽だろう。朝日からは厳しい。赤男山のトラバースは、上ったり下ったり、道も良くなく歩き難い。途中、小屋の関係者2名が木道の補修をしていた。一人はアジア系の方だった。

途中、清流が二箇所あった。小屋直前の流れで大汗を拭った。清流はサイコーに気持ち良かった。小屋まで15分。朝日岳は今回で3回目だが、小屋に寄るのは初めてだった。

受付で先代（故人）の娘さんで、現在オーナーの清水ゆかりさんに会う。
タレントみたいな名前がステキ。実は今回、ゆかりさんに渡すものを持参した。
1974年、初めて朝日岳に上り、親不知の縦走時、先代と因縁があったのだ。



朝日岳目指して



衣笠草



朝日小屋

朝日小屋は、12:44着いた。白馬山荘発が5:31。約7H。

遊びながら来た割には、まあまあ時間だった。中には15時過ぎの方もいる。

小屋は、赤い屋根の三角の建物だった。西に前朝日、東に朝日岳のコルにある。小屋前は広い草原で気持ちが良いところ。テン場にもなっている。

西は北又ダムからイブリ山を経由する登山道が伸びる。標高差は約1500m。結構、キツイ道だ。

小屋前のベンチでビアをやる。ロング缶が800-。5本やってしまった。(笑)

ベンチには続々と一期一会の仲間が集まって盛り上がる。不思議なモノで、全く初対面だが、ツマミは続々と出るしお酒もたくさん揃う。

年配の方も多し。私より1歳若い方もいた。15時ころ交流会に参戦した単独の方は何と83歳だった。

しかも兵庫から車を運転して来たという。毎年、ここに来るのが楽しみで、何年も通っているそうだ。

翌日、五輪尾根を下ったが、あそこを毎年よく上るものだと、感心した。

1974年の記録

http://outdoor.geocities.jp/takanori_reihou2222/998.pdf

大いにやって小屋に戻る。そこで受付の清水ゆかりさんに一枚のコピーを渡した。そのコピーは以下のものだった。

http://outdoor.geocities.jp/takanori_reihou2222/984.pdf

清水さんは、コピーを読んで痛く感動した様子だった。44年前、実父が自然保護に燃えその精神を受け継いだ人間が小屋を訪れてくれた・・・。小屋をやっていて、このような話は嬉しいことだと思った。

小屋の夕食は素晴らしかった。心がこもっているというか、手作りが多かった。やっぱり女性のオーナーは違うと思った。フキミソは、春に何と10kg収穫し作ったという。米も美味しかった。食前酒もあった。デザートも用意されていた。レピーターが多いのが分かる様な気がした。

また、トイレがウオシュレットにも驚いた。これは紙を燃やしている事情もあるだろうが、嬉しい限りだった。



夕食

08月02日(木・晴れ)

起床4:00-朝食5:00-出発5:19-朝日岳6:19-蓮華温泉分岐6:43-五輪尾根-白
高地沢9:54-瀬戸川10:37-蓮華温泉12:05-猿倉(ジャンボタクシー・2万)-長泉

長い長い下りにウンザリ

朝日小屋の朝食も5:00だった。有難い。外は涼しくて快適。天気は良い。

既に朝日岳に取り付いているパーティーがいた。

上るほどに展望が広がる。左手に剣が顔を出した。その右手、遥か後方は白山だろう。



剣岳



雷鳥の親子

登山道の右手に雷鳥の親子がいた。全部で七羽だった。好天に目撃は珍しい。

無事に大きくなって欲しいものだ。

辺りは雪解けのあとに白山小桜が満開だった。白山一華も凄かった。ひと上りで朝日岳着。

2001年、蓮華温泉からスキーでやったことを思い出した。

http://outdoor.geocities.jp/takanori_reihou2222/996.pdf

当時、蓮華温泉宿泊は100名くらいだったが、朝日をやったのは、我々だけだった。この時テント泊だったが、蓮華温泉とトイレの件でトラブル。下記に報告がある。

http://outdoor.geocities.jp/takanori_reihou2222/925.pdf



白山沙参（はくさんしゃじん）

周りは、白山沙参（ハクサンシャジン）が多く美しかった。釣鐘人参の高山型という。

下ると柵海新道分岐。真っ直ぐ進めば、いずれ日本海・親不知に出る。結局、柵海新道は、夏と春2回トレースした。右に曲がれば五輪尾根で蓮華温泉に至る。

五輪尾根は次第に暑くなり、実に長かった。幸い好天気でも木道は滑らなかったが、雨が降ると木道は滑り怖い。

五輪尾根を下り切って、白高地沢鉄橋を渡り、上ったり下ったりで瀬戸川鉄橋に着いた。瀬戸川から蓮華温泉まで標高差約250mの上りは地獄だった。暑い・長い・疲れたである。

蓮華温泉が見えた。予定より1H遅かった。すかさず生とスイカをいただいた。待たせた小谷タクシーで猿倉に向かった。

キツイ3日間だったが、充実した山旅だった。